

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還） 53

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43851

一九五〇年 八月二十九日藤山大臣、マックアーサー大使会談録

場所 大臣室

時間 午後四時五分～五時半

出席者 大臣、山田次官、森米局長、牛場経済局長

(途中より出席)、米保長

マックアーサー大使、ヘルツ書記官

大臣 旧小笠原島民に対する補償の問題に関し、帰島連盟と話合
つて来たが、今纏めて提案出来る事となつたので、米国政府が
此れを容れられる事を強く期待する。即ち島民は帰島を諦めず、
財産権を損う事なく、現在の生活を扶けるため、補償を要望して
いるので、一括払いで四十五億円を提案する。われわれから見

極秘

れば此れは無理な要求ではなく、亦連盟の人達は穏健な良い人
達であるので、最善の解決を計りたく、ワシントンでも話すつも
りである。委細は今差し上げるエード・メモリアルに認めてあ
る。(別添一を手交)

大使 本件は重要な問題で自分は一年以上にわたり心配して来た。
連盟の人達は良い人達で自分は昨年までは一部でも帰島が実現
する事を期待して来たが、防衛上及土地狭小の理由で当面その
見込みがない事がはつきりして来た。連盟の人達も此れを理解
してくれていると思う。自分が帰国の上は、米国政府がその自
発的措置として日本政府に一括支払いをなし、日本政府から個
人個人に渡して戴くよう取り計らう事を促進するつもりである。

本件に関しては財産権の制度が日米間で相違するという困難がある。即ち米国政府は何れ議会で予算を取らなければならぬが、米国法によれば所有権と切り離された漁業権、耕作権、牧畜権という觀念は存在せず、しかも小笠原の八割は国有地であるという実情であるので、米国の議員から見ればない権利に補償するという形にならざるを得ない。自分が秘かに議会筋を打診したところ多分三百五十万弗位はとれるのではないかとの事であったので、自分は五百万弗までは取り付けるよう大統領及び國務長官に強く具申するつもりである。しかし、御提案の四十五億円、約千二百万弗はともに見込みがないと思ひ。御提案はもち論お取り次ぎはするが、本件のバックグラウンドを御承知置

き願いたい。今朝も連盟の人達に会つたが、自分は此の人達のためには出来るだけ尽力するつもりである。今朝は今申し上げたような数字はいはなかつたが、法制の相違や、米国政府が自発的措施として日本政府に一括支払う考えであるという点はお話しておいた。自分の五百万弗というのもち論お約束出来るものではなく、三百五十万弗と聞いて自分が唯出した数字であつて、自分の計算では一戸当り百二十五万円位になるはずである。なお今回の支払は島民帰島の暁その財産権を損うものではないという点は米側も誤解はない。

大臣 両国の法制の差のため米國議會が理解に苦しむ事は尤もであるが、然し日本には日本の法制が行なわれており、日本の提案もその基礎の上になつてゐるという事は亦事實である。四十億圓という事は日本側からみれば他の例に徴しても根拠のある数字であつて、積算基礎は追而事務的に御説明させるが、決して出鱈目の数字ではなく誠意ある数字である。

大使 五百万弗の場合は一エーカー当り千弗以上となる計算であつて、決して不足な額ではないと思われる。而も米國側から見れば此れをない権利のために補償する訳である。只今のお話の如く日本側の積算基礎については、ヘルツ書記官に対し早目に御説明あるようお取計らい願いたい。

大臣 自分の一応了解するところでは戦前三年の収入平均に貨幣価値の変動を掛けたものである。

大使に御尽力願う上からも良く了解おき願いたい。

大使 自分も出来るだけの尽力はするが、問題は米國の議員を如何にして納得させるかという事である。

なお、特に御留意願いたいのはいろいろな数字を外に洩らさぬ様にして載せたい事である。萬一外に洩れては米國議會に対する影響は極めて悪いし、亦連盟の人達を失望させる様な結果になつても困る。

大臣 本件補償は物質的意味のみならず、帰島出来ないという苦痛に対する意味も含まれなければならぬと思う。

これも説明の一つの材料となる筈である。

大使 それは米国の裁判所の言葉に依れば *mental anguish* である。
自分は深い同情を持つている。